

先週の米国株式市場の下落と今後の見通しについて

- 新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、世界景気減速が避けられないとの見方が再び強まっています。
- 短期間の消費活動自粛による景気後退が懸念されますが、財政出動や追加的な利下げの可能性もあることから、市場が落ち着きを取り戻す展開を期待しています。

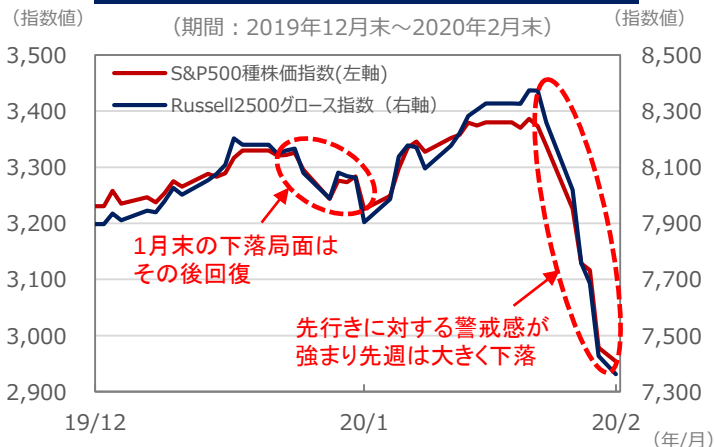
新型コロナウイルス拡大による世界的な景気減速を警戒

- 新型コロナウイルスの世界的な感染拡大への懸念から、投資家のリスク回避姿勢が強まり、先週の主要国の株価指数は全面安となりました。米国株式については、大型株式で構成されるS&P500種株価指数が先週末21日比で11.5%の下落、中小型成長株式で構成されるRussell2500グロース指数は10.8%の下落となりました。
- 1月末の感染拡大懸念の際は中国を中心としたアジア内で収まるとの見方が優勢で、その後株価は回復に向かいましたが、2月末は欧米でも感染が広がったことにより、新型コロナウイルスの影響で米国や世界全体が景気減速に向かうのではとの懸念が強まっています。

不透明感がありますが、中長期的には落ち着きを取り戻す展開を期待

- 一段と株価が下落するシナリオとしては、今後も世界的な感染拡大が続き、生産活動や消費が抑制されるとともに、長期間にわたり国際的な物流が滞り、2020年を通じて世界景気や企業収益への悪影響が避けられないとの悲観的な見方が強まることなどが想定されます。米国国内でも感染者が増加して景気が悪化した場合には、大統領選挙を控えたトランプ大統領の再選が危うくなり、株式市場に逆風となる政策を掲げる民主党政権誕生の可能性も考えられます。
- 一方で、相対的に早期に株価が回復するシナリオとしては、ペンス副大統領が対策の責任者に任命され、補正予算案の検討を含めた本格的な対策が功を奏することなどが想定されます。また、市場で期待されているFRB（米国連邦準備制度理事会）の金融緩和も追い風となり、市場が落ち着きを取り戻すとともに米国株式市場が上昇基調に転じる可能性もあります。SARS、エボラ出血熱が懸念された際は、その後数カ月で株価回復に向かっており、同様の展開を期待したいところです。

米国株式指数の推移



VIX指数（恐怖指数）の推移



出所：FactSetデータをもとに明治安田アセットマネジメント作成

※当資料の内容は、過去の実績および作成時点での弊社見解であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客様の投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客様自身の判断でなさるようお願いいたします。●当資料に指数・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。